

香川の風土記

(第2号)



香川風土記の会

開陽丸子孫の会

蘭仏訪問二〇一三に参加して

西山市朗・佳代子

百五十年目のオランダ

今年、幕府オランダ留学生がオランダに到着して百五十年。それを記念して開陽丸子孫の会が、オランダ・フランス訪問を企画しました。幕府オランダ留学生十五人の中に、塩飽出身の山下岩吉（高見島）と古川庄八（瀬居島）がいました。十五人の中には、榎本武揚や、岩吉と同年齢だった赤松大三郎がいました。また、共に長崎海軍伝習所でオランダの教官から学んだ仲間達がいました。古川庄八は、のち同じ留学生だった土分澤太郎左衛門の妹と結婚しています。今回の旅にはその子孫の方も参加されました。また、神内國榮さんも参加されました。

八月二十一日、最初に訪れたのはライデン。百五十年前は、船で一年近くかかってオランダに到着し、帰国時はできあがった軍艦開陽丸に乗船して、百五十日

ほどで帰国しています。それが今回、私達は飛行機で十二時間。

八月二十二日、百五十年目のオランダは、私達を岩吉や庄八が見た、また歩いたライデンのレンガ造りの町並みを感じ深く歩かせた。運河クルーズを楽しみ、ライデン市長を表敬訪問しました。市長は私達を温かく迎え、日蘭

交流四百年を記念して出版された本に、丁寧に一人ひとり全員にサインをしてプレゼントして下さりました。ライデン大学のシュミット教授には見事な日本語で迎えてい



山下岩吉らが学んだ航海訓練学校の今

ただき、まるで岩吉らが世話になったホフマン教授を見て
いる思いでした。

岩吉ら二人の水夫が学んだ航海訓練学校や、二人が
下宿していた建物も見ることができました。シーボルト
ハウスや日本庭園も心に残りました。

八月二十三日、ドルトレヒトでは、副市長が開陽丸
を建造した造船所跡を市長に代わって案内してくれま
した。咸臨丸や開陽丸を艀装したヘルフットスライスの
造船所の見学、咸臨丸が建造されたキンデルダイクの
造船所では咸臨丸が進水した跡を見学してきまし
た。

キンデルダイクでは、世界遺産に登録されている
十九基の風車群をバックに記念写真を撮りましたが、
やはり多くの観光客が訪れていました。

八月二十四日、多くの自転車が優先道路を走るライ
デンを後にして、アムステルダムに移動。オランダで
亡くなった留学生の大川喜太郎が眠る東墓地を訪問。
「眠れる森の美女」ではないが、森の中の墓地に眠る
喜太郎に出逢った思いになりました。それにしても、
オランダで最初に亡くなった日本人として手厚くお墓

が管理されて

いたことに驚

きました。午

後は、アムス

テルダム国立

博物館、ゴッ

ホ美術館に行

き、有名な絵

画を鑑賞する

ことができ感

激しました。

八月二十五

日、空路パリ

に移動、降り

しきる雨の中、

ベルサイユ宮殿を見学。案内人は非常

に歴史に詳しく、手招きやジェスチャーも加え、まる

で魔女に引き込まれて案内を受けているようでした。

その後、エッフェル塔・凱旋門・シャンゼリゼ通りな

どバスでパリ市内の観光を済ませ、夕食はパリ・ポプ
ラ会との交流会に参加。



キンデルダイク世界遺産の風車群

八月二十六日、ジュール・ブリユネの墓参りの後、ご子孫のエリック家を訪問。將軍慶喜から贈られた刀や幕末当時日本で描いたスケッチ画、ブリユネの肖像画などを見せて頂きました。午後は自由行動で、私達はオランダ留学生で、後パリで亡くなった医師林研海の墓参りに同行し、モンパルナス墓地に向いました。

同じ明治十年代に、パリで亡くなった鮫島特命全権公使の墓が近くにあり、まるで墓を探す私達を導いてくれるように立っていました。留学生仲間として、香港西貢江で詠んだ林研海の



ブリユネの肖像画とご子孫

漢詩「西貢江夜泊」が想い出されました。

その後、二人でルーブル美術館に行きました。展示品の素晴らしさと多さ・広さに驚き、すっかり迷い子になり、出口を探し彷徨いました。

夜は、セーヌ川ダイナークルーズに参加して旅を終えました。

三十五度の猛暑の日本から涼しいオランダ・パリ（二十度前後）の避暑旅行にもなりました。新しい出逢いがあり、見たいものが見ることができ、収穫の多い旅でした。